



残念なペットボトル製造中止

八戸圏域水道企業団事務局長 小島 賢悦

日本におけるミネラルウォーター類の国内生産、輸入量は合計で2011年は3,172,207トン、金額は2,347億52百万円にも上っているとのこと。単純に1リットル当たり74円で、水道料金と比較するため1トン当たりになると74,000円とべらぼうな価格となり、ミネラルウォーター業界がいかに割の良い商売をしているかがよく分かる。

日本におけるミネラルウォーター1人当たりの年間消費量は、2011年では24.8リットルで欧米の1/4から1/5程度である。確かに欧米と日本では上水道への信頼度は違うだろうが、この10年で年間消費量は2.5倍の成長を見せており、残念なことに水道水に対する誹りなき誹謗、中傷も手伝って、まだまだ増えていくことが予想される。

ところで先日業界新聞で、北陸のある事業者が販売するペットボトルが、2012年モンドセレクションにおいて金賞を受賞したとの報道を目にした。

昨年、関西の大きな事業者が金賞を受賞したとの情報を知った時、その事業者の原水水質があまり芳しくないというイメージを持っていた私は、水道水が世界的食品コンクールで評価されたことに驚くとともに、この受賞によって水道事業者の技術力と水道水の品質を住民にアピールができるよいキッカケになったのではと羨ましく思ったものだ。

これまで私にとってモンドセレクションと言うと、小・中学生時代に食べたある食品メーカーのクッキー「バター〇〇」を思い出すとともに、私の大好きなビールが3年連続受賞したことや様々な食品、飲料水が受賞してテレビCM等で強調していることは知っていたが、このモンドセレクションの内容や審査基準がどのようなのかは全く知らなかったし、関心を持つこともなかった。

ただ今回は、同業の水道事業者が受賞したということで、モンドセレクションとはどのようなものか興味を持ち少しネットで調べてみたところ、ものすごい情報量にびっくりさせられた。

そのなかに「モンドセレクションとはなにか」という記事が結構掲載されており、多くの方々がその内容まで知らないでいることを再確認した。

ネットからの引用であるが、「モンドセレクションは品質の向上を目的として、1961年ベルギー王国の経済省が主導して設立した品評会」であり、品質向上を目的としているため一番を決める大会ではなく、製品が一定基準をクリアすればその基準にあった賞を受賞できるということが特徴である。

ペットボトルについて、多くの水道事業者が災害時の応急給水や水道水のイメ



ージアップのために製品化しているが、日水協のホームページで調べたところペットボトル製造の水道事業者は119に上り、そのうちの61%、72事業者では販売も行っていた。

当然私どももこれまで湧水の「がんじゃの湧水」、浄水処理水の「八戸水物語」というペットボトルを製造してきたが、基本的には販売はせず、防災訓練の際に使用する目的で、原価は500ミリリットル1本当たり120円程度のペットボトルを年間6,000～10,000本を委託製造している。

このペットボトルは、無料配布ということもあって住民には絶大な人気で、防災訓練の際に、用意した分はすぐになくなる状況である。

このように、事業者のイメージアップに貢献しているペットボトルであるが、前述した関西の事業者では首長が変わったら、「民業圧迫で、赤字を出してまで水を売る必要はない。」として製造中止が決定したということである。私どものような無料配布ではなく、コンビニなどで平成19年3月以来132万本（平成24年1月現在）も販売し、有料でありながらこれほど住民に支持され、技術力の高さをアピールできていた事業なのに中止してしまうのを残念だと思ったのは、水道に携わる人間なのだからか？

安全で安心できる水道水を常時蛇口から出している地味な仕事に関心を持ってもらうことが、本当に難しいということを知っているのだろうか。

首長は、水道局の技術力の高さは、今後自分自身が直接PRするとおっしゃっていたようだが、PRをしている姿をメディアで目にしたことは残念ながらこれまでのところなかった。（私のつたない情報では）

確かに蛇口から直接水道水を飲んでもらうのが、水道事業の本来の姿であるが、モンドセレクションでの金賞受賞という第三者機関の評価をうけたという意味は非常に大きいし、水道水の品質の高さをアピールするにはうってつけの事業であったと思うのは私だけだろうか。

この受賞に触発されて、総額どのくらいの費用がかかるのか分からないが、モンドセレクションの審査料は1,100ユーロ（約11万円）ということなので、当企業団としても最高金賞受賞に向けての取り組みを進めてみようかと単純に考えるのは、職員にとって迷惑な話なのかも。